

(A : よくできた B : ややできた C : あまりできなかった D : 全くできなかった)

領域	評価の観点	No	評価項目（重点目標）	実 践 目 標 （ 具 体 的 な 実 施 内 容 ）	評価	
学 校 運 営	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	①ホームページを活用し、本校の教育方針、重点目標、行事や部活動の様子等をタイムリーに保護者や地域に発信する。	3.5	
				②自然災害や不測の事態等、緊急事態に対応できる情報発信手段を充実させる。	3.0	
		2	地域や関係機関と連携した学校づくり 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	オープンハイスクール等を通じて、教科「教職」や、総合的な学習の時間における地域との連携や、中学校訪問・出身中学校への学校案内配付等、広報活動に取り組む。	3.1	
				基本的な生活習慣の確立のため欠席・遅刻・早退の数を減らすことを目指し、規範意識及び自己管理意識を身につけるため、服装・頭髪、登下校時の歩行マナー、携帯電話使用マナー、自転車乗車マナーの指導を徹底する。	3.1	
		3	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	キャンパスカウンセラーによる研修を実施し、生徒の内面理解のための指導法の共有化を図るとともに、全教職員で組織的に取り組む。	3.1	
	進路指導	4	進路指導体制の充実	①進路指導研修会を開催するとともに、職員会議での情報提供を行い、個に応じた指導の確立を目指す。	3.4	
				②進路指導部の年間計画に沿って、キャリア教育充実の観点から、就職説明会、公務員説明会、医療看護系説明会、推薦入試・センター入試説明会、大学説明会等を実施する。	3.6	
	5	外部講師の活用・高大連携	卒業生による講演や、大学説明会を校内で実施し、生徒の大学に対する興味関心を高める。また、高大連携に力を入れ、神戸大学・兵庫教育大学・関西学院大学・武庫川女子大学等との連携を深める。	3.3		
	教職員の資質の向上	6	計画性を持った研修の実施	教育実習期間中の授業公開に加え、2学期に各教科毎の授業公開を行い、教員間の意見交換と研修の場を設定するとともに、保護者や地域に向けての公開授業を行うことを研究する。	2.9	
	危機管理体制の整備	7	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	①危機管理マニュアルの内容確認を繰り返し、その内容を実践できる訓練・研修を行う。	2.9	
				②自然災害や不測の事態等緊急時に対応できる体制の整備を図る。	2.9	
	8	個人情報の保護	成績、家庭情報、健康、生徒指導記録などの各種個人情報の管理体制を強化し、適切に管理する。	3.2		
	学校運営全般	9	専門部の運営と学年・学級の経営	学校教育目標達成に向けた各部および学年・学級の具体的方針を立て、生徒の自主性を高める指導に努力する。	3.1	
	PTCA活動	10	PTCAとの連携	学校保健委員会、保護者会を年2回実施し、進路指導部による入試結果等の進路情報の提供および学年からの指導方針の提示などを行う。	3.3	
	教 育 課 程	自ら学び自ら考える力の育成	11	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	生徒の多様な進路希望に対応する選択科目設定の工夫と、各教科による豊かな人間関係形成力の育成など、生涯の基礎となる興味関心に応じた特色ある教育課程を編成する。	2.9
		基礎・基本の定着	12	生徒の学力の把握と評価に関する創意工夫	観点別評価の方法について研究し、評価基準を設定し、知識理解のみに偏らない評価方法の実践は図っていく。また、生徒による授業評価を推進する。	2.9
教科「教職」の充実		13	教科「教職」のプログラムの充実と学校全体での取り組みの推進	「教職」類型設置を踏まえ、「教職体験」、「教育実践」、「教育探求」の更なる充実を図り、全教職員での取り組みを推進する。	3.0	
総合的な学習の時間		14	創意工夫を生かした実践の展開	研究テーマについての調べ学習の方法、発表における客観性の獲得などの学習を積んで、討論の仕方を身につける。	2.9	
特別活動（学校行事など）		15	学校行事の精選と行事内容の充実	修学旅行の実施内容の検討を重ね、体験学習を中心とした生徒の自身の力による修学旅行を立案する。	3.0	
		16	ボランティア活動	学校生活でのボランティア活動の推進を図り、その重要性への意識を高める。	2.6	
課 題 教 育	人権教育	17	人権意識の育成	身近な問題から人権の歴史・社会的問題等について、生徒が自ら考え自他の人権を守る態度を育て、人権HRの実施に取り組む。	3.2	
	情報教育	18	情報モラルの育成	人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等の重要性、ネットワーク上での安全な行動について考えさせ、情報リテラシーの確立を図る。	3.2	
	国際理解教育	19	交流事業の推進	ALTを授業で最大限活用するとともに、授業以外にも積極的に活用し、ALTを囲んで生徒との交流を図るなかで、コミュニケーション能力を育成し、異文化理解を深める。	3.1	
	環境福祉教育	20	高齢者や障がいのある人などへの理解を深める指導の推進	高校生地域貢献事業において、老人ホームや特別支援学校を訪問し、交流を通して理解を深める。	3.4	

## 学校関係者評価

- ・ボランティア活動の場を多く設定し、「自分は社会の一員」「地域の問題は自分の問題」との意識を育て、地域の課題を発見させる力を身につけさせる。
- ・「バランスのとれた人づくり」を目指した教育活動を展開するために、同窓会等の人脈を生かした取組を実施する。